

講演の概要

● 「エネルギーセキュリティの最前線より ～女川原子力発電所の再稼働に向けた取組み～」

講演内容：

2011年の東日本大震災による原子力発電所の事故以降、それまで国内で発電される電力量の約 1/4 を占めていた原子力発電が全て停止し、日本のエネルギー情勢は大きく変貌した。再生可能エネルギーなど新エネルギーの技術革新が進み、今や国内発電量の約 2 割を担うまで発展してきているが、供給が不安定で発電コストも高いなど、日本のベースロード電源となるにはまだ多くの課題がある。現在ベースロード電力を担う石炭や天然ガスなどの化石燃料による火力発電は、地球温暖化要因となり、かつ、ほぼ化石燃料を輸入に頼っている日本では昨今の円安やウクライナ情勢などによる燃料費高騰で顕在化したとおり外的要因による影響を受けやすい。



このような状況の中、エネルギー自給率が極めて低い日本において、エネルギーセキュリティにおける原子力発電の活用が見直されてきている。原子力発電の利用には賛否両論あるが、安全を最優先とした原子力利用については、将来の日本を描く上ではしっかりとした理解と議論が必要である。本講演では、原子力発電の現状として、東日本大震災で最も震源に近い場所にあった女川原子力発電所の再稼働に向けた安全性への取組みについて紹介する。

講師：東北電力株式会社 女川原子力発電所 品質保証部 品質保証総括課長 長谷川 勝広

講師プロフィール：

1995年上智大学理工学部機械工学科卒業、東北電力株式会社に入社、宮城県の女川原子力発電所に配属され発電所設備のメンテナンスを担当。その後、新規プラントとなる青森県の東通原子力発電所の設備設計および建設業務の担当など一貫して原子力発電所に係る業務に従事。2011年3月11日の東日本大震災時は、震源に最も近い女川原子力発電所に勤務し、地震と津波が頻発する中、発電所の安全停止および安定維持に従事。その後は、女川原子力発電所の新規規制基準適合のための設計業務および許認可業務を対応し、2022年に3度目の女川原子力発電所勤務となり、再稼働に向け現在に至る。